

# 環境経営レポート

## 2020年度

(対象期間:2020年1月~2020年12月)



《小城市まちなか交流プラザ ゆめぷらっと小城》

発行日:2021年3月31日

服巻建設 株式会社

# 目 次

1. 組織の概要	.....	p.1
2. 認証・登録の対象範囲	.....	p.1
3. 環境経営方針	.....	p.2
4. 環境経営目標	.....	p.3
5. 環境経営計画	.....	p.4
6. 環境経営目標の実績	.....	p.5
7. 環境経営活動計画の取組結果と その評価、並びに今後の取組内容	.....	p.6
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価 の結果並びに違反、訴訟等の有無	.....	p.7
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	.....	p.8

## 1. 組織の概要

- 1) 事業所名 服巻建設 株式会社  
代表者氏名 代表取締役 松尾 裕之
- 2) 所在地 本 社 〒845-0002 佐賀県小城市小城町畑田 988番地1
- 3) 環境管理責任者 常務取締役 中村 茂美  
担当者 総務部 笠原 明子  
連絡先 TEL0952-71-1005 FAX 0952-72-1799  
Eメールアドレス haramaki@mx81.tiki.ne.jp
- 4) 事業の内容 建築工事業、土木工事業、とび・土工工事業、解体工事業
- 5) 事業の規模
- | 活動規模 | 単位             | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|------|----------------|--------|--------|--------|--------|
| 売上額  | 百万円            | 879    | 182    | 210    | 255    |
| 従業員数 | 人              | 10     | 9      | 8      | 8      |
| 延床面積 | m <sup>2</sup> | 196    | 196    | 196    | 196    |
- 6) 事業年度 2020年1月～12月

## 2. 認証・登録の対象範囲

上記の全組織及び全活動

- 1) 対象事業所 本社  
2) 事業活動 上記の事業内容



# 環境経営方針

服巻建設株式会社は、天山水景の麓に位置し、小城清水の清流豊かな環境の中で建設工事を通じて、この環境の保全と汚染の予防に努めることを全社員が自覚し『環境にやさしい社会づくり』に取り組みます。

1. 次の事項に取り組みます。

- (1) 二酸化炭素排出量の削減
- (2) 建設にともなう産業廃棄物及び事業系一般廃棄物の排出量削減
- (3) 水使用量の削減
- (4) 資材、事務用品等のグリーン購入推進
- (5) 本業における環境貢献の推進
- (6) 常に継続的に環境経営改善に取り組む

2. 関係する環境関連法規等を遵守します。



改定日 令和 2年 6月 1日

服巻建設株式会社

代表取締役 松尾 裕之

## 4. 環境経営目標

活動期間(2020年1月～12月)

環境目標	単位	基準年 2017年度	年度			
			2018年度 (1%削減)	2019年度 (2%削減)	2020年度 (3%削減)	2021年度 (4%削減)
		2017年 1月～12月	2018年 1月～12月	2019年 1月～12月	2020年 1月～12月	2021年 1月～12月
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	11,920	11,800	11,680	11,560	11,443
(1) 電気使用量削減	kWh	12,749	12,621	12,494	12,366	12,239
事務所	kWh	10,554	10,448	10,343	10,237	10,132
現場	kWh	2,195	2,173	2,151	2,129	2,107
(2) ガソリン使用量削減	ℓ	2,381	2,357	2,333	2,309	2,286
事務所	ℓ	2,328	2,305	2,281	2,258	2,235
現場	ℓ	53	52	52	51	51
(3) 軽油使用量削減						
現場	ℓ	44	44	43	43	42
2. 廃棄物排出量の削減	kg					
一般廃棄物排出量の削減	kg	288	285	282	279	276
産業廃棄物リサイクル率の向上	%	100	100	100	100	100
3. 水使用量の削減	m <sup>3</sup>					
事務所	m <sup>3</sup>	42	42	41	41	40
現場	m <sup>3</sup>	15	15	15	15	14
4. グリーン購入の推進	%	グリーン購入に配慮していく				
5. 省資源・省エネ型設計・施工の提案	件	省資源型設計・施工に配慮していく				

※二酸化炭素排出量の計算で使用した排出係数は九州電力

平成28年度の二酸化炭素調整後排出係数(0.483kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用しています。



## 5. 環境経営計画 活動期間(2020年度) (2020年1月～12月迄)

取組目標	サイト区分	活動項目
<b>1. 二酸化炭素排出量の削減</b>		
(1) 電気使用量削減	事務所 現場	使用していないパソコンの電源を切る
		昼休み時間の消灯
		照明器具、空調機フィルター清掃
(2) ガソリン使用量削減	事務所 現場	急発進、急加速、急減速の禁止
		不要な荷物は積まない
(3) 軽油使用量削減	事務所 現場	急発進、急加速、急減速の禁止
		不要な荷物は積まない
		定期点検の実施
<b>2. 廃棄物排出量の削減</b>		
一般廃棄物排出量の削減	事務所	分別によるリサイクルの推進(用紙類はシュレッダー処理)
		コピー用紙裏紙の利用
産業廃棄物リサイクル率の向上	現場	転用可能な資材の活用の推進
<b>3. 水使用量の削減</b>		
	事務所	節水ラベルの貼付
	現場	節水の呼びかけ
		出しっぱなしをなくす
<b>4. グリーン購入の推進</b>	全社	事務所・現場共 グリーン購入に配慮していく
<b>5. 省資源・省エネ型設計・施工の提案</b>	現場	省資源型設計・施工に配慮していく



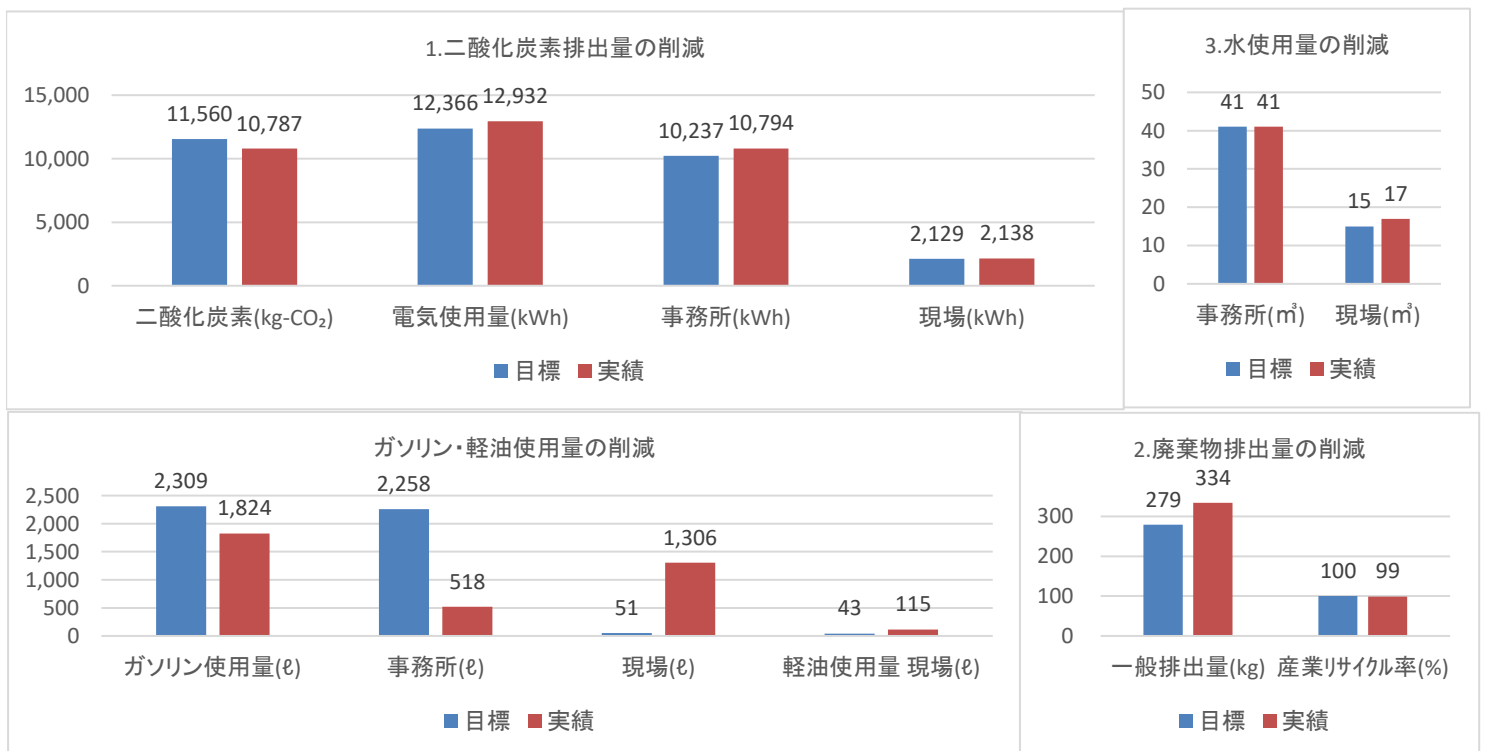
pixta.jp - 48095364

## 6. 環境経営目標の実績

活動期間(試行期間:2020年1月~12月)

環境目標	単位	基準年 (2017年度)	2020年1月~12月			
			目標	実績	評価	結果の評価
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	11,920	11,560	10,787	○	
(1) 電気使用量削減	kWh	12,749	12,366	12,932	×	事務所使用量は気候が穏やかで削減出来たが現場は工事の状況により比例して増えた。
事務所	kWh	10,554	10,237	10,794	○	
現場	kWh	2,195	2,129	2,138	×	
(2) ガソリン使用量削減	ℓ	53	2,309	1,824	○	
事務所	ℓ	0	2,258	518	○	ガソリン使用料も電気使用量と同様に現場状況により増加している。
現場	ℓ	53	51	1,306	×	
(3) 軽油使用量削減	ℓ					
現場	ℓ	44	43	115	×	上記と同様
2. 廃棄物排出量の削減	kg					
一般廃棄物排出量の削減	kg	288	279	334	×	雑誌・段ボール等は100%リサイクル出来ている。
産業廃棄物リサイクル率の向上	%	100	100	99	×	
3. 水使用量の削減	m <sup>3</sup>					
事務所	m <sup>3</sup>	42	41	41	○	節水は意識を持って行っているので、特に無し
現場	m <sup>3</sup>	15	15	17	×	
4. グリーン購入の推進	%	グリーン購入に配慮していく			○	
5. 省資源・省エネ型設計・施工の提案	件	省資源型設計・施工に配慮していく			○	

※二酸化炭素排出量の計算で使用した排出係数は九州電力 平成28年度の二酸化炭素調整後排出係数(0.483kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用しています。



## 7. 環境経営計画の取組結果とその評価並びに次年度の取組み内容

### 1. 二酸化炭素排出量の削減

活動項目		実施状況	1年間の評価	次年度の取組
		1月～12月		
電気使用量削減	こまめな消灯	○	・概ね実施出来ている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こまめな消灯</li> <li>・エアコンの適温調整</li> <li>・エアコンの定期清掃</li> <li>・今後もガソリン、軽油使用量削減を意識していく。</li> </ul>
	エアコンの適温調整	×		
	照明器具、空調機の定期清掃	○		
ガソリン使用量削減	急発進、急加速等の禁止	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね実施出来ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こまめな消灯</li> <li>・エアコンの適温調整</li> <li>・エアコンの定期清掃</li> <li>・今後もガソリン、軽油使用量削減を意識していく。</li> </ul>
	不要な荷物は積まない	○		
軽油使用量削減	急発進、急加速等の禁止	○		

### 2. 廃棄物排出量削減

活動項目		実施状況	1年間の評価	次年度の取組
		1月～12月		
一般廃棄物	分別によるリサイクルの推進	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・裏紙の使用頻度を増やした。</li> <li>・分別によるリサイクルの推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も社内ランを活用し、無駄な用紙の使用しない。</li> <li>・現場の産廃等は再資源化する。</li> </ul>
	コピー用紙の裏紙利用	○		
産業廃棄物	転用可能な資材の活用推進	○		

### 3. 水使用量削減

活動項目		実施状況	1年間の評価	次年度の取組
		1月～12月		
こまめな節水	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節水に努めた。</li> <li>・節水ラベルを貼付けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も節水に努める</li> </ul>	
節水ラベルの貼付け	○			

### 4. グリーン購入の推進(事務用品)

活動項目		実施状況	1年間の評価	次年度の取組
		1月～12月		
グリーン購入に配慮していく	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アスクルのエコ商品等の利用をしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーン製品の購入に努める</li> </ul>	

### 5. 省資源・省エネ型設計・施工の提案

活動項目		実施状況	1年間の評価	次年度の取組
		1月～12月		
省資源型設計・施工に配慮していく	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事現場の提案は出来ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設機械等環境に配慮する</li> </ul>	





## 8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業活動、関する環境関連法規等は次のとおりです。

適用される法規等	適用される事項(施設・物質・活動等)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)	マニフェストの交付・回収・保管の適正処理
建設リサイクル法	一定規模以上の建築4品目の分別解体と再資源化
建設業法	建設業許可
騒音規制法	特定建設作業の届出 建設現場での機械使用時の騒音レベルの遵守
振動規制法	特定建設作業の届出 建設現場での機械使用時の振動レベルの遵守
浄化槽法	浄化槽の管理、保守点検、法定点検の実施
フロン排出抑制法	簡易定期点検の実施

令和2年3月に上記の環境関連法規等の遵守状況を確認・評価した結果、違反はありませんでした。また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。



## 9. 代表者による全体評価と見直しの結果

### 1. 評価

- ・ EA21の取り組み4年目に入り2度目の中間審査となるが、社員全員エコに対し責任と意識を持って現場環境に取り組んでいる。
- ・ 2020年はコロナ禍により現場も多少影響を受けた時もあるが、今後も環境的に今の状況とさほど変わらないと思われるので現場環境に留意し、施工していく様促した。
- ・ 今後も猛暑に備えて暑さ対策が必要となるが、作業に支障なく省エネに努めていくようにする。

### 2. 見直し

- ・ 今年度版にて環境経営方針に『(6)常に継続的に環境経営改善に取り組む』を追加

- ### 3. SDGsとは「持続可能な開発目標」として2015年9月の国連サミットで採択されたもので17の目標を掲げている。その中でも我々建設業に最も関係性がある、7～12の項目には今後配慮しながら環境経営改善に取り組んで行く。

Society 5.0  
for  
SDGs



**7. エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに**  
すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



**10. 人や国の不平等をなくそう**  
国内および国家間の格差を是正する



**8. 働きがいも経済成長も**  
すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する



**11. 住み続けられるまちづくりを**  
都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする



**9. 産業と技術革新の基盤をつくろう**  
強靱なインフラを整備し、包摂的に持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る



**12. つくる責任 つかう責任**  
持続可能な消費と生産のパターンを確保する

 服巻建設 (株)

代表取締役 松尾 裕之